

## 第1回日本サケつりサミット in 忠類川

### サケつり河川実務者円卓会議（サミット） 協議結果の記録

1. 日 時 平成19年 9月22日（土）15：30～18：00

2. 場 所 標津町生涯学習センターあすばる 特別会議室

3. 出席者 29名（5河川関係者、ゲスト、実行委員会関係者）



#### 4. 協議結果

##### （1）サミットの趣旨

◇初めに亓田実行委員長よりサミットの趣旨について説明

- ・全国12河川に増えたサケつり河川が共存共栄していくためネットワークを持つことが必要ではないかという考えであり、この会議では何かを決めるというのではなく、皆で課題や将来のことを話し合い、これからの事業の推進に役立てようという趣旨である。

## (2) 各河川の状況と課題について

### ①忠類川



- ・参加者の減少傾向が続いていることが最大の課題である。サケつり河川の中で首都圏から地理的に最も遠いこと、飛行機の便数が少ないことなどが要因であると考えている。
- ・忠類川は自然が豊かに残されていることが魅力である。このことを釣り人の皆さんに伝え、参加者の増加につなげたいと考えている。
- ・この忠類川の自然環境を守ることが非常に重要なことなので、今年、札幌市より放置自転車を譲り受け、移動手段として自転車を取り入れた。その結果、利用者が多く好評である。

### ②茶路川



- ・参加者数は延べ人数では2,000人台を維持しているが、実人数ではピーク時に比べ半減していることが課題である。
- ・参加者からの要望の多くは、ルールを守って楽しい釣りをしたいということである。ルールは面倒であったとしても気分良く釣りたいという人が大半である。
- ・茶路川ではいまだに引っ掛け釣りが横行しやすい。引っ掛け釣りを撲滅させることが最重要課題である。
- ・ルールを守ってくれる人だけ来てくれれば良いと考えている。

### ③浜益川



- ・悪質なルール違反者が多く、昨年は50名の許可を取り消した。今年は監視が行き届かない上流800mの区域を削り、釣り区域を2.5kmに縮めたところ、違反者は減り、今のところ許可を取り消したのは1名のみである。
- ・区域を縮めたことによって収入は減少したが、その分経費を削減して対応している。
- ・ルール違反者は来なくて良い。悪質なルール違反者のブラックリストをつくり、全河川で共有し、そのような者はサケ釣りに参加できないようにすればどうかと考えている。
- ・違反者は様々な仕掛けを使い、これは違反ではないと主張し、対応に非常に時間がかかる。サケ釣り河川の共通ルールがあれば良いと考えている。

#### ④寒河江川



- ・北海道は魚の数が多くうらやましい。寒河江川では北海道に比べて資源が少ないので、魚の数に見合うように参加者数を1日50人、日数は1週間～10日間に限定している。参加者数はシーズン全体で350～380名である。

- ・サケのふ化放流事業は経営が非常に苦しく、赤字すれすれの状態である。

- ・参加者の枠を増やすことができないネックは資源量であり、これが課題である。

- ・釣り人のマナーの問題については全く心配したことはなく、マナーは非常に良い。

#### ⑤奥入瀬川



- ・釣り区域の下流に捕獲施設があり、サケは一度そこですべて捕獲され、上流に放流した魚を釣る形であり、増殖事業に支障を及ぼさない条件でのサケ釣り事業であるところが他の川とは違うところである。

- ・昨年からボランティアで監視やビギナー講座に協力してくれるボランティアスタッフを募っているが、さらに充実させることが今年の課題である。

- ・ルールやマナーに関する問題はほとんどない。

- ・ビギナー講座を開催したところ、73名もの人が参加し、そのうち3分の2は子供たちであり、サケ釣りへの関心が高い。本州ではサケ釣りはやったことのない釣りであり、サケ釣りをしたことのない人がたくさんいる。

#### ⑥まとめ

- ・各河川それぞれ事情が異なり、課題もそれぞれ異なることがわかった。課題について大まかに言うと、北海道はルール違反者と参加者の減少、本州は資源があまり多くないと増殖事業との兼ね合いに関することが主なものである。

- ・特に北海道の浜益川、茶路川からは、ルール違反者の取り締まりに苦労していることが報告され、北海道においてはルール違反が多いということが大きな課題であることが鮮明になった。

- ・しかし、ルール違反を行う者は一部であり、大半の参加者はルールを厳しくしてもいいから楽しく気分よく釣ることを望んでいる。これからは一部のルール違反をなくすることに努めるとともに、ルール・マナーを守る釣りを広く普及させることが必要であるというのが皆の共通の認識であった。そして、ルール・マナーを守る釣りをこの川のサケ釣りでつくりあげ、全国に普及させて行ければ良いということでおよその意見が一致した。

(3) 各河川が協力してできる取り組みについて

※各河川より出た案は次のとおりである。

①川のサケつりの宣伝・周知

- ・今年初めて参加する人が多く、まだ川のサケつりを知らない人は多いと考えられるので、まだまだPR不足である。(忠類川、茶路川)
- ・PRイベントの実施      スタンプラリーのような各川のつながりを持った取り組み  
全国的川に参加する人は割引にするなど  
サケの大物日本一を競うイベントなど

②全国共通ポスター、パンフレット等の作成

③共通ルール、釣具規制の統一

④各河川の情報の共有

⑤全国サケつり河川協議会の立ち上げ

⑥(将来的に) 全河川共通ライセンスの発行

(4) 「日本のサーモンフィッシング」の将来像について

①参加しやすい申込受付体制への改善

- ・現在は特別採捕許可で行っているため、1ヶ月前などかなり前から申し込まなければ参加できず、申込みしていないが釣りたいという人がいまだに多い。申し込みから参加までの期間がもっと短ければ多くの人を助けられるので、もっと短くすることができないか。→ 検討課題とした。
- ・申込みをするという行為は大事である。事前申込はルールを守る責任を持たせる役割があり、事前に申し込むからルールをわかっている人が来る。何時でも誰でもできるようにすれば、ルール・マナーを知らない人も川に入ることになり、トラブルが起きる。
- ・1日の人数制限のある川では、その日できなかったから明日やりたいと言ってもできないので、このことの改善が図れないかと考えている(奥入瀬川)。

↓

※このことについては、特別採捕許可の出し方に問題があり、青森県の場合は北海道とは異なり、その人がサケつりをできる日程までも限定した形の許可を出しているため、改善が図れないか奥入瀬川が県庁と協議することにした。

②全河川共通窓口、共通ライセンスの発行

- ・この窓口に関わり合えば、全河川の情報がわかり、行きたい日の何日前に申し込めばライセンスが取得できる。ライセンスはどの川でも使用できる。

### ③全国共通のルールづくり

#### (5)「日本サケつりサミット」の今後の進め方について

- ・年に1回、このような情報交換や話し合いの場があると、課題の解決や全体でサケつりを盛り上げていくことなどができるので、ぜひ続ける方向で進めたい。できれば各河川が持ち回りで進められれば良い。
- ・続けていくには経費や労力の負担が課題である。経費については、各河川から負担金を出し合って行う形が良いのではないか。
- ・「全国サケつり河川協議会」のような組織を立ち上げて進めることが必要ではないか。
- ・来年の第2回はぜひ奥入瀬川さんをお願いしたい。

→ 経費のことで市役所の承認をもらえていないが、もう一度相談して検討する。

(奥入瀬川)

#### (6) その他



##### ①ツアー旅行企画会社であるANAセー ルス（株）より

- ・例えば参加したい日の10日前までに申し込みば釣りができるという形になれば、ツアーの申込みと併せてできるので、ツアーを組みやすくてできる。また、旅行会社にも説明責任があるので、ルールの統一が図られ

ると我々から説明でき、お客さんもわかりやすいので良いと思われる。このようなことができればサケつりを観光資源として活用でき、我々もお手伝いすることができる。

- ・現在、お客さんが自分で旅行行程を組める仕組みづくりをしている。情報や提案があればぜひお話をいただきたい。陸続きの本州の川でも対応可能です。

##### ②ゲストの方々より

###### ◇風間 深志さん

- ・サケという魚は特に凄い魚である。産業の資源として町を形成している。また、サケの遡上を復元させようと一生懸命取り組んでいる所もあり、川でのサケつりも標津から始まり全国に普及している。サケは産



業、釣り、子供たちへの教育、自然のバロメーター、海と陸をつなぐ大きな素材であるなど、資源として大きな意味を持っている。このことを皆さんにも認識していただきたい。

- ・サケつりは難しい釣りであり、誰でも簡単につれるものではなく、釣り技術、ルール・マナーの会得、心構えなどが必要な完熟したスポーツフィッシングである。このようなサケつりを多くの皆さんにやってもらうためにどこまで切り崩すべきかを考える必要がある。金儲けのために人を呼ぶ方法ならたくさんあるが、金儲けではなく、サケはたくさんの大きな意味を持った魚であるから、その活用のシステムづくりをこの会議で話し合っていけば良い。
- ・釣りのことでこのような会議を真剣に行っているのは面白い。この会議は物凄く大事で良い会議であり、全国でも大いに重宝されると思う。絶対に続けたほうが良い。

#### ◇夢枕 獏さん

- ・アラスカまで行かなくてもサケが釣れることはものすごく魅力である。
- ・忠類川に関して言えば、あとはサクラマスつりの実現と中標津空港が1日2便になることを望んでいる。

#### ◇風間 深志さん②

- ・忠類川はサケ釣りだけでなく、川そのものがすべて魅力である。川に立っているだけで楽しい。ここは資源がたくさんある。
- ・人を増やす方法ならいくらでもあると思う。この事業をどういう位置づけにして、どういう人を対象とし、どういう目的で人を呼ぶか、落とし所を決めれば方法はいくらでもある。
- ・忠類川で川のサケつりが始まって一つの夢物語ができた。今は開始当初の新鮮さが薄れてきたこともあると思うが、サケを釣りたい人ならいくらでもいる。そういう人が来れるようにレールを敷いてやれば人はいくらでも来る。学習的な要素を取り入れるのも良いと思う。人が減ったとあまり数字に深刻になる必要はないと思う。

## 第2部 サミット・フェスティバル

～いま、サーモンフィッシングが熱い！～

実施結果の記録

1. 日 時 平成19年 9月22日（土）18：30～21：00
2. 場 所 標津町生涯学習センターあすばる 大ホール
3. 出席者 89名（サケつり河川関係者、一般のサケつりファン、町内関係者、一般町民など）



#### 4. イベントの内容

(1) 開会のあいさつ 疋田実行委員長

(2) 歓迎と乾杯のあいさつ 標津町長

(3) 各河川からのPRメッセージ

①茶路川 ②浜益川 ③奥入瀬川 ④寒河江川 ⑤忠類川

(4) しべつとどわら太鼓公演



(5) ゲストによるトークショー



ゲスト：

(右より)

山村レイ子氏

夢枕 獯氏

風間 深志氏

コーディネー  
ター：

藤本顧問

(6) ラッキー抽選会



(7) 「忠類川の歌」披露 作詞・作曲・歌：住田 政徳氏（忠類川指導員）

(8) 閉会のあいさつ 藤本顧問

5. 実施状況

サケつりに関わる方々の懇親の場として、和やかな雰囲気の中、大いに盛り上がった。



## 第3部 サミット記念サケつり大会

### 実施結果の記録

1. 日 時 平成19年 9月23日(日) 5:00～10:00

2. 場 所 忠類川

3. 参加者 10名

#### 4. 実施結果

|     |             |      |    |            |    |
|-----|-------------|------|----|------------|----|
| 優 勝 | 野原 督嗣氏(中標津町 | 58歳) | サケ | 尾叉長 78 c m | メス |
| 準優勝 | 森澤 邦博氏(京都府  | 63歳) | サケ | 尾叉長 77 c m | オス |
| 第3位 | 土橋 俊也氏(埼玉県  | 29歳) | サケ | 尾叉長 75 c m | オス |



#### 5. 実施状況

参加者は多くなかったが、つり大会であるために皆が張り切り、大いに盛り上がった。  
上位3名には、実行委員長よりトロフィーと賞品を贈呈した。